

解説 26 大学からの伝言—批判的思考とは何かを知る—

【課題のねらい】

この課題では、ある主張の妥当性について、直観や好き嫌いで決めるのではなく、どのような証拠や根拠があるのかをじっくりと見きわめてから判断するという批判的思考がどういうものであるかを、少しでも体験することをねらいとしました。題材に使った『水からの伝言』というのは、一見したところ、科学的な装いをまといつつ、何の証拠も根拠もない疑似科学と呼ばれるもので、疑似科学ということばを知ってもらうために使いました。

【解説】

批判的思考とは「物事を一面的に見ずに、多面的に見る」ということです。この課題の場合、『水からの伝言』という主張に賛成しようが、反対しようが、それは個人の自由です。この点で、高校までの勉強のように、たった一つの正解がないわけです。しかし、直観や好き嫌いで賛否を決めるのではなく、賛否両方の証拠や根拠を徹底的に調べることが必要不可欠です。このようなことは、厳密に言えば、批判的思考のごく一部ですが、少しでも大学の勉強のイメージをつかんでもらうために体験してもらいました。

このような批判的思考を構成するのは、(1) 論理的思考への自覚、(2) 探求心、(3) 客観性、(4) 証拠の重視、という4つのことからです。この4つのうち、自分がどの点で弱いかを知るには、以下の項目が自分にどれだけ当てはまるかを自問自答すれば、ある程度、わかります(これらの項目は、平山るみ氏と楠見孝氏の作った批判的思考力を調べるための質問項目のごく一部です)。

(1) 論理的思考への自覚：「複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ」「考えをまとめることが得意だ」(2) 探求心：「いろいろな考え方の人と接して多くのことを学びたい」「生涯にわたり新しいことを学び続けたい」(3) 客観性：「いつも偏りのない判断をしようとする」「物事を決めるときには、客観的な態度を心がける」(4) 証拠の重視：「結論をくだす場合には、確たる証拠の有無にこだわる」「判断をくだす際は、できるだけ多くの事実や証拠を調べる」

大学に入学するまで、常に、これら4つのことがらに注意しながら、人の話を聞き、本を読み、テレビやネットを見てください。そうすれば、批判的思考力のウォーミングアップになり、入学後、スムーズに大学の勉強になじめるようになるのは間違いありません。

なお、疑似科学については以下の2冊が必読書です(最低①は読んでください)。

①左巻建男(2007). 水はなんにも知らないよ ディスカバー・トウェンティワン ¥1000

②菊池聡(2012). なぜ疑似科学を信じるのか—思い込みが生み出す二セの科学 化学同人(DOJIN 選書) ¥1900